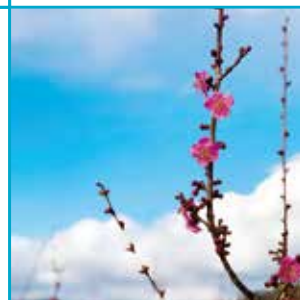


WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2021
vol.31



私の日本は和歌山、職場は和歌山大学

和歌山大学前副学長 クパニ ルンビディ

私の人生は大きく2つに分かれていて、前半の31歳までコンゴ民主共和国でした。当時トラックで三日間かかる、離れたイエズス会の有名な高等学校で勉強したことは忘れられません。年に3回、即ちクリスマス、春休み、7-8月の年度末休みの期間しか家族のもとに戻ることができませんでした。すべての教師はベルギー人の司祭でした。その後、首都のキンシャサ・カトリック大学（現コンゴ・カトリック大学）で哲学を学び、修士学位を取得しました。そして、キンシャサの商科大学（Ecole Supérieure de Commerce）で論理学とフランス語の常勤講師として、5年間勤務しました。

私の人生の後半は、34年間海外で過ごしてきました。そのうち日本の和歌山で29.5年、フランスで4.5年となります。

日本に滞在した29.5年の間に、大阪外国語大学で留学生として6ヶ月、和歌山大学大学院経済学研究科で2年、博士号取得のために和歌山市と大阪市立大学を往復して4年、民間企業で1年、和歌山大学で教鞭をとって20年を過ごしました。

つまり和歌山は私の日本全体です。和歌山大学で初めて日本の代表的なリーン生産方式（トヨタ生産システムまたジャストインタイム生産システム）

を学び、そのシステムを日本だけでなくドイツやフランスでも教えました。

和歌山大学は私の日本での生涯の職場です。私は和歌山大学で育ち、講師、助教授、学科長、評議員を経て、教授、副学長として退職しました。私は和歌山大学を誇り、また感謝します。和歌山大学は、学生や教員のグローバル化、国際化を非常に重視しています。世界各国から留学生を集めようと努めています。和歌山大学のグローバル化を支えているのは、和歌山県や和歌山市、及び和歌山のボランティア団体です。ボランティア団体の中で目立っているのはWIN Concordです。

寒い日本に住むのは少し心配でしたが、和歌山の人々の温かさを体験し和歌山のことが好きになりました。和歌山に留学する留学生は、メリットがたくさんあります。澄んだ空気を吸い、太平洋沿岸の美しいビーチを訪れ、山林を散策し、世界遺産を楽しむことができます。和歌山市は私の街になりました。2人の子供はここで生まれ、自分のことも和歌山市民だと思っています。

和歌山大学の職場環境はフレンドリーでストレスがありません。地方の規模の小さな大学ですが、学生や教員のダイバーシティを高める努力をしています。外国人の教員もよく溶け込んでいます。国際的な教育経験を持つ私は、英語と日本語で授業を行うことで、教育の国際化に貢献しました。

和歌山大学の留学生及び外国人の教員が増えると、和歌山はもっとグローバル化になります。



和歌山とのご縁

王 涛（中 国）

もしも僕らが出会わなければ、僕はどこにいただろう。

あっという間に9年間の留学生活を終えて、社会人になる人生の節目を迎えました。嬉しい気持ちと共に懐かしい思い出で胸がいっぱいです。振り返ると、日本に来てから修士課程を修了するまでの思い出がどんどん浮かんできました。楽しく幸せ、辛く残念なこと、色々不思議なことが起こりました。日本に留学し、和歌山に来たこと、日本で就職したこと、すべては想像していなかったことですが、何らかのことをきっかけとして起こりました。それが人と人のご縁だと思います。

2011年高校卒業して、中国の大学に行くつもりだった私は、日本への印象はアニメ、電気製品とマナーがいいという程度でした。ただ「外国に留学してみませんか」と勧められたら、何か周りの人と異なることをやってみたいと思って、日本に留学することを決意しました。これが日本とのご縁の始まりだと思います。

大学の入学試験の時、国立の授業料が安いから和歌山大学に入学しました。1年目は大阪から通いましたが、(株)オークワの社員寮に安い賃料で入居できるチャンスがあったので、和歌山に引っ越しました。これが和歌山とのご縁の発展ではないかと思っています。

大阪での4年間はアルバイトと学校しかなかったもので、周りは留学生ばかりで日本の社会に無知のまま和歌山に来ました。初めて日本の社会に接し、日本のいいところを知ったのは、WINコンコードの方々のおかげです。

和歌山では、WINコンコードの皆様の支援とご指導を頂いて、大学院に進学し、奨学金の選考試験に合格し、日本の企業に就職できたなど、良いことばかりでした。自分は運に恵まれている男だと思います。人生の選択肢はたくさんありますが、WINコンコードに出会ったからこそ、日本の企業に就職して暮らし続ける道を選んで、人生が変わったとは言いすぎでもありません。そのため、和歌山を自分の第二の故郷であると勝手に思っています。和歌山で出会った皆様に「ありがとう」と一番伝えたいです。

この5年間に、WINコンコードの色々なイベントに参加し、異なる国の留学生と交流することで



自分の考え方が柔軟になりました。また、交流会の司会に挑戦するチャンスも頂き、人の前でうまく話せなかった私は、少しでも勇気をもって話せるようになりました。さらに、WINコンコードのお母さんお父さんから日本社会のマナー、物事に対する真面目さと他人への思いやりを学び、今後の人生のための大事な宝物を収穫しました。

この5年間に、WINコンコードの就職活動支援に参加することで、より早く就職活動の勉強、資料の作成と就活の練習ができました。「なぜこの企業を選びましたか」「なぜこう思いますか」と問い詰められたシーンが常に浮かんできます。WINの方にご指導を頂いたおかげで、高度技術力を持つメーカーに就職することができました。WINコンコードでたくさんの勉強ができたから、私が今の私になり、少しずつ強くなりました。

この5年間に、お母さんたちの料理を食べたこと、引っ越しを手伝ってくれたこと、和歌山の名所に連れてくれたこと、日本語を指導してくれたこと、先生と深夜まで実験をやったこと、ニトリで5年間アルバイトをしたこと…過去のことを思い出したら切りがないです。和歌山であったことは胸に刻んで一生忘れません。和歌山の空、山、海と人に出会って、新しい自分を見つけました。和歌山に来てとても良かったです。

4月に和歌山から離れて社会人になりますが、和歌山とのご縁、和歌山の方々のご縁を、どこに行っても大切にします。人生は一期一会なので、人と人の縁が結ばれば、それが一生の宝です。そう思って人を大切にして一人前の社会人になるよう努力していきます。また皆様と会える日を楽しみにしています。

WINコンコードの皆様、5年間大変お世話になり、ありがとうございました。強くなれる理由は、大切な人が笑顔で支えてくれるからです。これからも私の頑張る姿を見守ってください。

モンゴル最大の祭典(ナードム)

アリウンサナー (モンゴル)

モンゴルの伝統的な祭典の中で最も長い歴史を持つのが「ナードム」である。ナードムはモンゴル語で祭りという意味があり、チンギス・ハンのいた大昔から地域伝統行事として行われてきた祭りである。しかし、現在のように国の行事となったのは1921年のことであり、それ以来、革命記念日である7月11日から3日間にわたって開催されている。モンゴル人にとってのナードムは、何より優先、何より楽しみ、何より憧れの祭りであり、特に男性にとってナードムに出場すること、そして見事な成績を収めることは、誇りと名誉をかけた真剣勝負である。ナードム祭では「男の3種競技」といわれるモンゴル相撲、競馬、弓が開催され、全国各地から選ばれた猛者が力と技を競い合う。

まず、モンゴル相撲について紹介する。ナードムの開会式が終わると、モンゴル相撲が始まり、同時に何組もの取り組みを行いながら、トーナメント方式で優勝を競う。モンゴル相撲の特徴は、階級や土俵がなく、手をついただけでは負けにならず、相手の膝または背中などが地面に着いたときに勝敗が決する。さらに、時間制限がないので、勝負が決まるまで長い時間がかかり、ナードム祭で優勝者が決定するまでに3日間かかることがある。続いて、モンゴル相撲の流れは、まず相撲の始まる前には両者ともに大きく手を使って鷹の舞を踊り、その後、帽子(マラガイ)を審判に預け、試合開始となる。次に、試合に勝つと審判から帽子をかぶせてもらい、逆に試合に負けた場合は勝者が両手を広げた下をくぐり、負けを認める。最後に、勝者は審判からアーロールという乳製品などを受け取り、草原に撒いて感謝を示す。優勝者は日本相撲の横綱を意味するアルスラン(ライオン)の称号を与えられ、国民から大変尊敬される。



次に、競馬について説明する。騎馬民族であるモンゴル人にとって、馬は何より大切な財産であり友でもあるため、競馬が三種の競技のうち最も人気の競技である。競馬の主役は6歳から12歳までの子どもたちであり、競馬のレースは2歳馬、3歳馬、4歳馬、5歳馬、6歳馬以上の5段階に分かれた各レースが行われる。また、馬の年齢に応じてレースの距離が決められている。具体的には、2歳馬は約15km、6歳馬以上は約30kmになり、数百頭の馬が草原を駆け抜けていく。競馬の中で一番注目が集まるのは2歳馬のレースで、優勝の馬とともに最下位の馬も「来年こそは一番早い馬になりなさい」という願いを込めて賞が与えられる。さらに、各レース5位までの馬には馬乳酒をかけて祝福する。



最後に、弓について紹介する。弓は個人戦と団体戦があり、老若男女問わず参加ができる集中力などが必要な頭脳戦競技である。弓(ノム)は長さ1.5m前後、矢(ソム)は約1mのものであり、的は牛や馬などの皮から作られたソルを積み上げて作る。的までの距離は男性が75m、女性は60m、17歳以下の男子は年齢かける4m、女子は年齢かける3mの距離が設定されている。弓のルールは60個積み上げた的(ハナ)と30個積み上げた的(ハサー)の2種類の的にそれぞれに当たった数で勝敗が決まる。優勝者にはメルゲン(弓名人)の称号が与えられる。



イランのお正月(ノウルーズ)

ファテメ (イラン)

イランで一番有名なお祭りは「イードノウルーズ」で、イラン暦の元日だ。ペルシア語で「ノウ」は新しい、「ルーズ」は日ということを意味する。「ノウルーズ」の習慣は、ゾロアスター教の新年の祝祭に由来し、3月21日から4月1日まで続く。約3000年前のもので、多数の儀式が執り行われる。

「イード」の1ヶ月前に、村人は街に出て詩を歌って、周りから謝礼をいただく。時々、男性は赤いドレスを着て顔を黒くする。タンバリンを持って街に出て、踊ったり歌ったりする。街にいる人々は、彼らにプレゼントをあげる。

3月上旬に大掃除が始まり、家族全員が助け合う。彼らは家を改築したり、塗装したり、新しい家具を購入したりすることもある。ペルシアカーペットのホコリも払う。大掃除をする理由は、死者が家に戻って来て、家がきれいになっているのを見て、死者が幸せになるということだ。さらに公共の場所も綺麗にして、新しい年を明るく迎えようとする。

3月中旬に植樹を開始し、きれいな新年を過ごすために家族は全員で苗木を植える。母親は小麦またはレンズ豆を浸して「ハフト・スィーン」の装飾に使用できるようにする。一週間前に知人と友人に年賀状を送る。「イード」の時、新しい服を着るのが一般的で、2ヶ月ほど前に買い物に行く。だから街は混雑し、市場は人でいっぱいだ。

このお祭りは、イラン人にとって非常に神聖であるため、多数の結婚式は「イード」中に行われている。「ハフト・スィーン」は食卓を準備するのが非常に重要だ。食卓上に頭文字が「スィーン」で始まる七つの物を集める。「ハフト」とは、ペルシア語で数字の「七」を表し、「スィーン」はペルシア語のアルファベットの「S」を表し、神様のお礼という意味だ。

七つの物の代表的なものとしては、健康、美しさ、実りを象徴する「リンゴ」、人生における喜びの象徴であり、健康を保つための薬「ニンニク」と「スーマック」の実、忍耐の象徴である「酢」、愛情や生の象徴である、「ヤナギバグミ」、再生や喜び、自然と人間の生活の結びつきを示している「青草」と植物の生育と実りの象徴である甘いプディングの「サマヌー」が用いられる。

また、これらに加えて創造の象徴である「卵」、統一や明るさの象徴である「鏡」、人生における清らかさ・恩恵の象徴である「水」、活力や人生の象徴である「金魚」、そして、商売の繁盛や投資の象徴である「硬



貨」、明るさや熱、光の象徴である「ろうそく」、さらに「スイセン」の花も「ハフト・スィーン」に飾られる。一番重要な物は、イスラム教の聖典つまり「クルアーン」だ。新しい年へと暦の日付が変わる瞬間にコーランの一節を朗詠する。

新年の最初のお昼ご飯は、ほとんどお魚と野菜のピラフと漬物だ。新年が始まる瞬間、皆挨拶してキスやハグもする。はじめは年下の者が年上の者に対して行い、それから「年長者が年少者のところに挨拶に来る」という答礼訪問が行われる。年下の人達は年上の人達からお年玉を頂く。そんな理由で、銀行は年末に客に新しい紙幣を配るように準備する。

イラン人の仲間意識や連帯感の強さからして、毎年歳末の時期には、イラン全土に共感をともなう親密な雰囲気漂い、全ての人々が自分のできる範囲で金銭的な援助を行うことにより、恵まれない人々も新年の喜びを味わうことができるようにするのだ。

一部の家庭は、自らの宗教的な習慣に基づいて年が変わる瞬間を、巡礼所やイマームの聖廟といった精神性溢れる場所で過ごし、神の御前で人間の尊厳や英知の後光の恩恵に浸る。さらに、お正月休みの期間中は国内各地を旅行し、人々は故郷に帰省する。

国際連合総会は2010年2月23日に、この日を「ノウルーズ」国際デーとして正式に認めた。アゼルバイジャン、アフガニスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタンなどの一部の国々では、「ノウルーズ」お祭りは今も行われている。これらの国々の総人口は合計で3億人に上り、国家レベルで「ノウルーズ」を祝っている。

注

* 「スーマック」は、中東料理で使われる香辛料

* 「ヤナギバグミ」は、中央アジアの乾燥地帯でよく見られるグミ科の植物

* 「青草」は、レンズ豆の芽が成長した植物

高野山へ

バヤナー（モンゴル）



日本に来たばかりのときの希望は、色々な観光地へ行って一生忘れられない思い出を作ることでした。この思いを実現する機会を与えてくれたのは WIN の方々でした。

ある日「みんなを連れて高野山へ行きますよ。」と WIN の方から連絡がありました。実は、私は「高野山」を「紅葉」と間違えて聞いて、先輩から紅葉について教えてもらったり、自分でインターネットから調べたりして、こんな観光地かなと想像していました。高野山に着くまでずっと間違った思いを抱いていました。標高 800m の高い山頂を目指して行く道中、紅葉はこんな高い所にあるのかなと思っていました。

結局、高野山に着いたときびっくりしたのは、標高 800m の山頂に人々が住んでいることでした。そして、そこには人々が生活している人家だけでなく、世界遺産に登録された複数のお寺や奥の院があることでした。高野山は、平安時代の初めに弘法大師によって開かれた日本仏教の聖地です。弘法大師は唐から帰国される時、伽藍建立の地を示し給えと念じ、持っていた三鈷(さんこ)を投げられ、その三鈷は空中を飛行して現在の壇上伽藍の建つ壇上に落ちていたという話を聞きました。全てのお寺や奥の院は様々な歴史や物語を有していますが、全部聞き取るためには長い時間が必要です。それでも、私たちに色々な面白い物語、歴史を教えてくれた WIN の方々に感謝します。

日本の観光地というと、まずはお寺が考えられ

ます。和歌山県以外の観光地を見に行きましたが、私にとって最も印象に残ったのは高野山でした。その理由は三つあります。一つ目は、高野山は来日して初めての旅行地であったこと。二つ目は、高野山の美しい景色と歴史的背景に感動したこと。三つ目は、お寺や奥の院について話をしてくれた WIN の方々がいらしかったことでした。

WIN の皆さん、一生忘れられない思い出を作ってください、本当にありがとうございました。

お正月初詣

張 展栄（中国）

あけましておめでとうございます。貴方は時間が経つのが早いと感じませんでしたか。新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、慌ただしく過ぎた 2020 年が終わって、新たな 2021 年を迎えました。

お正月の 2 日にベトナム、モンゴル、カザフスタン、インドネシアおよび中国など、各地域の出身者が集まって、元気に新年を祝う嬉しい気持ちを抱えながら、感染予防対策を万全にした上で、「紀州東照宮」へ初詣に出かけました。

コロナ禍によってお正月の休み期間中ですが、紀州東照宮に来ていた人は思ったほど多くなかったです。万葉集に「若の浦に 潮満ち来れば 渦をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る」と詠まれている名勝地、和歌浦にある紀州東照宮です。長い歴史が感じられる雰囲気にも囲まれている環境下で、新しい年も平和で順調に時を刻むようにと願って、皆は神社でお参りをしてきました。新年の平穏無事を祈念した後はおみくじを引く時間です。皆は神社の左すみにある社務所前に並んで、おみくじ



筒を振る用意をして待っていました。いよいよ私たちの番になりました。おみくじ筒を両手で抱えて「大吉を引いて今年の運勢が幸運であるように！」を祈って力強く筒を振りました。一人一人の笑顔が見えて、皆も運勢がよいことを表す「吉」のおみくじを引いていたのが大変嬉しかったです。今年中には必ず良い運勢に乗って、コロナ感染拡大がなかなか収まらなくても、私たち自身も体調に十分気を付けて、留学生活と勉学に一生懸命頑張ります。

初詣でが終わったあとに、私たちは他の神社へ二番詣でをしてきました。二番詣でをする場所は、紀州東照宮からそれほど遠くない「玉津島神社」というところです。和歌浦の美しい景色を楽しみながら、歩いて玉津島神社に到着しました。賽銭を入れて、私達は二カ所目のお参りですけれども心の底から新しい年が、みんな元気潑刺になるように祈願しました。

神社に行っただけではなく、和歌浦に来れば必ず和歌浦の海浜の景色をゆっくり満喫しなければ残念で仕方ないでしょう。そういう気持ちなので、私たちは片男波の海浜に行きました。柔らかい砂浜を歩いて、やさしい海風を感じながら海を眺めることは爽快で大変素晴らしかったです。

今日の楽しみはまだ終わっていません。私たちは WIN の事務所に帰って、一緒に協力して暖かく美味しいお鍋料理を作りました。寒い日が続いているけれども、一緒に美味しい料理を食べて、一緒に談笑して、一緒におもしろいゲームをしたことで心が暖かくなりました。

厳しく大変な 2020 年が遂に終わりました。新たな 2021 年は、自分の歩みを止めないで、もっと理想的な自分になるために精一杯努力します。

皆さんも一緒に頑張りましょう。



2020 年度 活動経過

4 月	2 日	お花見	根来寺 和歌山県緑花センター
4 月	6 日	お花見	大池遊園
5 月	28 日	WIN コンコードニュースレター第 30 号発行	
5 月	31 日	第 12 回 WIN コンコード総会	WIN 事務所 留学生によるスピーチ
6 月	8 日	世界遺産見学	法隆寺 飛鳥寺
7 月	1 日	新入留学生への支援-図書カード贈呈	
7 月	5 日	和歌山市内案内	
8 月	25 日	送別会	韓国
9 月	11 日	送別会	紀美野町 県立自然博物館
9 月	18 日	白浜 千畳敷	アドベンチャーワールド
9 月	20 日	マレーシア留学生の交流会	
9 月	21 日	送別会	和歌浦 加太
10 月	17 日	世界遺産見学	紅葉狩り 金剛峯寺襖絵
10 月	30 日	新入留学生歓迎会	(モンゴル留学生)
11 月	13 日	新入留学生の受け入れ対応	
11 月	22 日	世界遺産見学	壇上伽藍 奥之院
11 月	23 日	ミニ交流会	WIN 事務所
12 月	12 日	第 18 回 学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト (オンライン)	後援
12 月	13 日	ホームビジット	会員宅
12 月	19 日	八朔狩り 忘年会	紀の川市 WIN 事務所
1 月	2 日	お正月初詣	紀州東照宮 玉津島神社
		おせち料理 百人一首	WIN 事務所
1 月	5 日	お正月初詣	日前宮 紀三井寺
		お正月料理 百人一首	WIN 事務所
2 月	11 日	交流会	WIN 事務所
2 月	16 日	白浜-千畳敷	京都大学水族館
2 月	21 日	白浜-三段壁	崎の湯
2 月	27 日	卒業祝い	インドネシア
3 月	1 日	卒業祝い	タジキスタン
3 月	4 日	和歌山大学から感謝状を拝受	
3 月	5 日	国際シンポジウム 第 1 回「アジアにおける日本語教育—現状と課題」に参加	
3 月	10 日	龍神温泉	
3 月	23 日	卒業祝い	マレーシア
3 月	29 日	お花見	加太国民休暇村公園
3 月	30 日	お花見	紀の川市

年間

- ・就職活動に向けた勉強会（リモート）
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・ホストファミリーとして支援

新留学生紹介(2021 年)

ミャグマルダシ (モンゴル)

私はモンゴルから和歌山大学に留学することになった、ミャグマルダシと申します。2000 年 11 月 7 日にゴビアルタイという所で生まれました。ゴビアルタイはモンゴルの南西部にあり、ゴビ砂漠とアルタイ山脈から命名されており、ウランバートル市から 1,000 キロメートルぐらい離れたところです。この場所はゴビ砂漠の付近にあり、私はその田舎で生まれ育ちました。私は祖父と祖母と一緒に田舎で育ったから、モンゴルの伝統文化や遊牧民族の生き方をよく身につけています。成長して学校に通うようになり、数学の授業が大好きになりました。そのため、毎年、数学に関するオリンピックに参加し 1 位、又は 2 位を取って来ました。そして、数学がもっと面白くなり、他の頭をよく使う物事にも挑戦するようになりました。そして、チェス、物理などもできるようになり、色々と頑張ってきました。

私が日本に留学したいと思ったのは、高校生のときです。私はゴビの高原地帯で育ったので、大海を見たことがないし、日本は科学技術がすごく発達している国なのだから留学して勉強しようと思いました。それで、モンゴルの科学技術大学の「ツイニング・プログラム」に入り、和歌山大学に合格しました。和歌山大学のある和歌山県には、観光地がたくさんあるので、そこで海を見たり、旅行をしたりしたいと思っています。

和歌山での生活を楽しみにしております。よろしく願いいたします。

ファティマ(マレーシア)

初めまして、和歌山大学シス工学部 1 回生、マレーシアの留学生ファティマと申します。和歌山県の皆様どうぞよろしくお願いいたします。マレーシアの首都クアラルンプールの近くに住んでいます。

幕末の志士 高杉晋作が言った「おもしろきこともなき世を おもしろく すみなすものは心なりけり」の辞世の歌をよく思い出します。

中学校 3 年生の時、マレーシア国際日本語弁論大会に出ました。この言葉のおかげで弁論大会の成績が 5 位になり、現天皇陛下の徳仁殿下と話をすることができました。その時この言葉を見つけて、今まででも人生に大変役に立ちました。



勉強、生活、人の関係、自分の活動、全部一心にします。初めてが面白くなさそうでも、一生懸命面白くなるように努力します。和歌山で生活することも良い思い出になるように面白くします。

和歌山に決まったのは、予備校の先生のおかげです。水野先生が「和歌山いいですよ。ファティマ君に合いそう。」と言ってくれました。その日の後、突然和歌山のこと SNS でたくさん出てきました。NHK ワールドのドキュメンタリーとか、ニュース記事もありました。ミカンと新鮮野菜や魚など、すごく楽しみにしています。私も和歌山の郷土料理を学びたいです。誰かが教えてくれたら大変嬉しく感謝します。その上、和歌山のいろんな綺麗なところへ行きたいと思います。熊野古道と和歌山電鉄の猫の駅長などです。愛しているマレーシアのため、工学を必死に勉強しながら、日本の和歌山の美しさや素晴らしさを味わい、自らの考え方を改めて進歩するようにします。

それでは、コロナのため今日本に行けなくても、何時の日か和歌山で会いしましょう。

ツォグゾルマー (モンゴル)

和歌山大学に留学しているモンゴル人のツォグゾルマーと申します。2000 年 7 月 15 日にモンゴルのウランバートル市で生まれました。ウランバートル市は、モンゴルの首都で全人口(324 万人)の 50 パーセントを占めている大都市です。

私はこの都市で子供のころから現在まで住んでいます。小中学校と高等学校は、家の近くにある学校へ通学して卒業しました。私の母と叔母・叔父もこの学校を卒業しました。国立の高校だったので、教育水準は他の高校より低かったのですが、合唱の大会では毎年一位を取りました。私もこの合唱部で頑張ったことがあります。高校の時はいろいろなことにチャレンジすることが好きだったので、数学のオリンピックやチェスの大会に毎回参加

してきました。

高等学校を卒業した後、日本に留学したいと思ってモンゴル科学技術大学の「ツィニング・プログラム」に入りました。このプログラムには土木、機械、建築という3つの専門コースがあります。私は物作りが好きで土木を専攻しました。

「ツィニング・プログラム」が他の大学と違うのは、モンゴルで2年半勉強して、その後2年間で日本の大学で勉強して卒業できたら、学士号を2つ取得することができます。日本へ行く前にはEJU試験、TOEIC、面接試験を受けて良い点数を取らなければ合格して行くことができません。私は2年半モンゴルで勉強して、試験を受けて合格しました。その結果、私は和歌山大学で勉強することになりました。

和歌山県には色々な観光地があるので、夏休みや冬休みの時、旅行に行きたいと思っています。日本の生活を楽しまたいと思います。宜しくお願いします。

マ ル (マレーシア)

はじめまして、私はマレーシアから来ましたマルと申します。私は和歌山大学経済学部的一年生です。

私の出身地はマレーシアのトレンガヌです。トレンガヌには有名で綺麗な島がたくさんあります。そして私の家は海に近いところです。私は海や島の景色が大好きで、今住んで居るところは、毎日海を見ることができてありがたいです。だから私は日本にいても、自分の田舎のようなところに住んでいて感じます。家族と4,600キロメートルも離れているのに、ここでも海を身近に感じることができて幸せです。

留学する間、私は日本語の能力を高めるためにたくさん日本人の友達を作りたいです。そして、私はファッションや化粧品について興味があるから、友達と一緒に買い物したりしたいです。それだけではなく、勉強を疎かにしないで一生懸命勉強しながら大学生活を楽しみます。

私が日本に留学する理由は、日本のことを深く学びたいと思うからです。国の発展がどんどん進んでいても、日本の文化は前世代から伝えられて残っていることに大変感銘を受けています。そして、日本の社会構造はマレーシアとかなり違うと思うから、そこをもっと学びたいと思います。だから卒業した後、帰国して何か日本の社会から学んだことが自国の社会にとって良かれと思ったら、それをしたいと考えています。



アズハル(マレーシア)

初めまして。アズハルと申します。マレーシアのクアラルンプールの出身で、2001年に誕生しました。

約2年間マレーシアで日本語を勉強していたので、ついに来日できてたいへん嬉しいです。新しい友達に会えて、新しい季節を経験できて、新しい雰囲気を感じられて、色々な新しいことができるので本当にラッキーだと思います。

これから日本語をさらに深く勉強するので本当は怖いですが、これが一生で今回しか得られないチャンスだと思って、しっかりこの4年間を生かして過ごしていきたいと思っています。日本語がうまく身につきますように、日本人の皆様もよろしくお願いします。

和歌山に住んでいる間、できるだけ色々なボランティア活動などに参加しようと思います。なぜなら、日本人と知り合いになれるだけでなく、日本の文化や日本人の考え方などを学ぶこともできるからです。それは即ち、日本にいる時間が、私にとって価値がある筈だからです。日本での経験を楽しみにしています。

サラ (マレーシア)

初めまして、私はサラと申します。マレーシアから来ました。和歌山大学観光学部的一年生です。

マレーシアの西側にあるセランゴールの出身です。趣味はユーチューブを見たり音楽を聴いたりする事です。暇な時にウォーターカラーで絵を描くのも好きです。化粧やファッションに興味を持っていて、ストレスを発散するために、よくモールに行ったり買い物したり、ウィンドウショッピングをしたりします。料理を作るのも好きだから皆に様々なマレーシアの料理を作ってあげたいです。

日本は国の発達や技術の進歩で有名で小さい頃

からよく知られていて、私たちマレーシア人にとってとても素晴らしい国です。その理由で日本に留学する意思が更に強くなりました。

日本にいる間、頑張って勉強するだけではなく、他のたくさんの楽しいことをやってみて、日本の文化なども深く学びたいです。たくさん友達を作りたいし、日本の伝統的な食べ物を食べたいし、日本の伝統的な行事も日本人と祝いたいです。また、マレーシアは四季のない国だから、日本にいる間に花見とかスキーとかを体験したいです。

家族と離れて、外国に留学するのは初めてだから全然寂しくないとは言えないが、みんなの応援があれば大丈夫だと思います。和歌山大学で一生懸命に勉強したり、新しい雰囲気で自分の知識を広げ、日々を過ごすのを楽しみにしています。日本語学校でたった 20 ヶ月しか日本語を勉強していないのでいろいろ教えてくれると嬉しいです。

よろしくお願いします。

高 敏（中国）

高敏と申します。中国の西安から来ました。今は和歌山大学システム工学科修士一年生です。もう一年以上和歌山に住んでいます。時間がこんなに早く過ぎるとは思わなかったです。

2020 年は、誰にとっても忘れられない年です。私にとってはもっとそうです。コロナのせいで、家で授業を受けなければなりません。社交がなく、友達がいません。毎日冷たいパソコンに向かって、何もできませんでした。ただ授業、寝る、ご飯を食べるだけです。こんな生活が 1 年間続き、生活に情熱を失くしました。不安になり、迷い始めました。

それにもかかわらず、家族と先生と友達に励まされて、ゆっくりゆっくりと苦境を脱しました。偶然のきっかけで、私は WIN チームに入りました。イランの友達と温泉に行って、留学生たちと桜を見に行きました。

私の生活は去年の寂しさから、一気ににぎやかになりました。今の私は生活に積極的に直面し、友達を作り、アルバイトに行き始めました。もっとたくさんの所に旅行に行きたいと思うようになりました。この世界の美しさを感じたい。生きているのは幸せです。

特に WIN チームに感謝したいです。このチームのおかげで、とても良い友達ができ、イランの友達と一緒に旅行に行って、一緒に言語と文化の壁を克服しました。二つの異国の心は、ますます近づいていきます。本当に幸せでした。



ここでもっと多くの友達と出会えることができ、写真と旅行が好きな友達をもっと作りたいと思います。私はこの世界の素晴らしさを一緒に感じたいです。

コロナが早く終わって欲しいです。人は誰でもタイムマシンを持っています。過去へは記憶が、未来へは希望が連れて行ってくれます。

フォン（ベトナム）

私はホーチミン市師範大学の日本語学部の **ma tjet phuong** と申します。去年、2020 年の 12 月から日本語・日本文化研修生として和歌山県へ来て、和歌山大学に通っています。世界中にコロナ禍が拡大している状況のなかで日本へ来られて、非常に運がいいなあと思っている私です。残念ながら緊急事態宣言がまだ続いているので、対面授業ができずにオンラインで受講しています。しかし、和歌山大学の先生方に応援していただき、WIN コンコードに参加させていただき、皆と交流できて良かったです。

日本に滞在中に日本語の勉強に集中したり、日本で様々なことを体験したりしたいと思います。帰国して大学での勉強を終了してから、日本へ戻る希望を持っています。将来、日本での生活のなかで、外国人を援助する事に関した仕事に就職したいと思っています。

私自身の信念は、収入、地位、仕事に関わらず誰でも同じ人間である。そして、私にとって意義がある生き方は、自分に何ができるか？他人に何ができるか？を問い続けることです。将来日本へ来る多くのベトナム人留学生がいるなら、彼らには簡単に諦めないで、あくまでも自分の夢を追いかけてほしいという言葉伝えたいと思います。

試行錯誤を繰り返すと思いますが、努力すれば絶対成功を迎えられる筈です。

水のような振る舞い

イ チャンミン (韓 国)

来日する以前から日本についてのイメージは、韓国より発展している先進国というイメージだった。先進国の基準が何なのかは、はっきり知らないが、一般的には経済的に豊かな国を指す。しかし、日本での留學生活の間、私が驚いたのは日本の経済力より日本人の振る舞いだった。それは、まさしく「水のような振る舞い」であった。「水のような振る舞い」とは何か。

和歌山には山が多く、小川に水が流れているのを見ることが多い。流れている水をよく観察してみると、水は重力に逆らうことなく、上から下に流れている。また、岩や木などの障害物と出会っても、抵抗せずに少しだけ方向を変えて流れていくだけだ。私は「水」と「日本人」は似ていると思う。自分と違う何かと出会っても抵抗、反発、逆らうことなどを極限にまで抑えて調和を実現する姿。その点で水と日本人は似ていると思う。日本人の「水のような振る舞い」には何があるのだろうか。

バイト先に行く時の出来事だ。和歌山の自然環境を満喫するために、また運動も兼ねてバイト先には自転車で行く場合が多かった。そして、自転車に乗って走っていると路地から本通りに出ようとしている車によって道が防げられる状況が頻繁にあった。韓国でこのような状況になると、普通に自転車に乗っている人の方がその車を避けて行くのが当然だ。しかし、日本の場合は違った。十中八九、運転手さんは自転車に乗っている人に不便を感じさせないようにバックして道を開けてくれた。私はこの瞬間に今まで感じた事がない気分になった。逆に私のせいで相手にバックしてもらうことになって申し訳ない気分になってしまったのだ。私が自転車に乗ったまま、その車を避けて行く方が、運転手さんがバックするより手間がかからないと思ったからだ。自分の国でこれほどの思いやりは見たことがない。私は心からその振る舞いに感動した。

日本語で話をする時もよく「水のような振る舞い」を感じることもある。日本人は日常会話で自分の主張を強く訴える場合は滅多にない。それは相手が自分と違う考え方を持っている場合、相手を困らせるかもしれないからであろう。

逆に日本人と比べ、韓国人は自己主張が強いと

感じる時が多い。自分の意見をはっきり言える方が良いかもしれないが、私は韓国人として日本人の「水のような振る舞い」を見習いたいと思う。どんな人と出会ってもスムーズに過ごせることが大事ではないだろうか。日本語に良く見られる「あいづち」も同じ背景から始まったと思う。相手がどんな人間であろうとも「私は今あなたの話に耳を傾けています」ということを「あいづち」を使って相手に表している。そして、相手の話に集中していることを見せることによって相手との関係を保つことが出来るようになる。まさに、これは「水のような振る舞い」である。しかし、韓国人の中には日本人の思いやりと話の仕方を見て、「どこまでが「本音」で、どこまでが「たてまえ」なのか。ただ猫をかぶっているだけではないのか。むしろ素直な姿を見せるのが良いのではないか」と思う人さえいる。

しかし、私は「水のような振る舞い」は人間社会の一員として生きていく私たちに、必ず必要な美德だと思う。自分の話をするより相手の話を聞く。見返りを求めず、自分から先に相手に対し配慮を示す。私は来日してから半年以上経っているが、日本人の「水のような振る舞い」は日本の第一番目の魅力だと思う。火は障害物と出会ったら全てを燃やし尽くすが、水は障害物に反発せずに流れていくだけだ。また、石はその形が既に決まっていて、大きさや形が合わないと、小さい器に入れることは出来ない。しかし、水は三角の器に入れても、四角の器に入れてもその形や大きさに合わせて変われる。私はこれからの人生で「火」でもなく「石」でもない「水」のような人間になりたいと思う。

テクノロジーが教育の未来を

どのように形成するか

アディティア (インドネシア)

皆さん、ご存じの通りテクノロジーというものは時代から時代へと急速に発展してきました。例えば、30年前インターネットが発明されたことは誰も想像できませんでした。また、20年前まではコンピューターを持っている人が少なく、贅沢だと思っていた人が多かったです。それから10年前、携帯電話のゲームがビデオゲームコンソールと同じようにプレイできるとは考えていません

でした。

テクノロジーの発展は、ビジネスの世界にも影響を与えています。それはいいことばかりでなく、わるいこともあります。例えば、人間の仕事がロボットに奪われたり、コンピューターの高度な技術を使っている人を騙したりすることも起こっています。

では、教育の世界でどんな影響があるのでしょうか。ビジネスの世界のように、人間がすべき仕事をA Iやロボットに奪われる可能性があります。つまり、コンピューター技術で教師という仕事が将来的になくなるのではないのでしょうか。

最近、教育の世界で変化があることに気付いているかもしれません。例として、携帯のアプリケーションやコンピューターのウェブサイトの中間に情報を探し求める人が多くなってきています。インターネットなので情報がたくさん入っています。手を使っているだけで、世界の情報を手にすることができます。情報の幅が広いので、ウェブサイトは教師よりも頭がいいと考えている人が増えてきています。さらに教育の世界では、昔と変わって教師中心ではなく学習者中心になっています。学習者はインターネットから自分のペースで自由に勉強したり興味のあることに関して情報を収集したりすることが当たり前になってきています。

では、教師の仕事をコンピューターの最新技術に完全に置き換えるほうが良いのでしょうか。それはないと思います。なぜなら、教師をA Iに置き換えることはできません。専門家によると、オンラインでしか学べない学習者は、自分で勉強する意欲や熱意がなければ、直接学校や大学の教室で勉強する人から取り残されてしまうという結果が分かりました。ご存知の通り、学習者というのは頑張って勉強する人もいますが、あまり勉強したくない人もいます。しかし教室の中では、教師がいるからこそ勉強したくない人も、嫌でも勉強に集中しなければならないのです。

皆さんは学生時代にめんどろを見てくださる先生がいっぱいありましたか。私はそういう経験がありました。中学校三年生のころ、私はA先生に教えられました。A先生はいつも私のめんどろを見てくれました。私は、実は先生の授業にそんなに興味はなかったんですが、先生はいつも私に色々な質問をして指導してくれました。先生のおかげで少しずつその授業に興味を持つようになりました。A Iはそういうことができないのでしょうか。やはり人間なので、どんなにまじめな学生でも学習に詰まったり嫌になったりする

時もあると思います。その時は、A Iは勉強の相談にのってくれたりすることができません。頼りになるのは教師です。

皆さん、私にとって教師というのは、知らないことを教えたりしてくれることだけでなく、愛情と同時に感情があるので、いつまでもその存在は消えることがないと思います。皆さんはどう思いますか。

留学生としてすべきこと

エヴリリヤ（インドネシア）



私はずっと前から日本に行きたいと思っていました。とても遠い夢だと思っていましたが、それでもどうしても日本へ行くことにずっと憧れていました。ですから、この日研生プログラムに推薦されたということは、すごく夢のようなものだと思っていました。

あれから準備などで大変なことも体験しましたが、ついにここまで来られて、現在この瞬間に他の留学生と一緒に和歌山大学で勉強しています。

授業に参加して日々を過ごしていると、時々次のような思いが浮かんできます。どうして私が選ばれたのでしょうか。インドネシアからの応募者は私だけではないですし、他の国からの学生を加えたら応募者の数は少なくないでしょう。それなのに、その沢山の学生から選ばれたということは、きっと何かがあると信じています。

ここにいる留学生の皆さんは、和歌山大学への入学を認められたことに、どのような意味があるのかを考えたことがありますか。ここまで来ることができた理由は、ただの運ではないと思います。よく考えてみると、きっと私たちに「すべきこと」という大きな意味があるのでしょうか。

やはり留学するというのは、ただ授業を受ける、

課題を提出する、評価されるだけではないのです。個人の意見ではありますが、きっと皆さんも同感していただけたと思います。

入学が決まった時から、私たちは自分なりに「すべきこと」というものが与えられました。それは、ここにいる留学生によってそれぞれですが、私にとって「すべきこと」は、「時間を効率的に使うこと」だと思っています。単純そうに見えても、かなり多くの課題が含まれています。

例えば、いろいろな現場でいろいろな方と話して会話力を上達させること、日本にいる時にしかできないことをして、できるだけ経験を積むことなどです。この2つを実現させる力を得るには、周りの人の期待に応えたいという思いを強く持たなければなりません。そして、母国に帰ってからきちんと留学したことを説明できるように、頑張って時間を有効活用しなければなりません。

そうすれば、皆に誇らしく思わせることができ、さらに、自分自身もより成長することができます。家族や友達、大学の先生など、みんなの期待に応えられるようにこの限られた時間を効率的に使いましょう。

とても考えさせられる話題だと思いますので、留学生の皆さんもぜひ時間がありましたら、留学しているうちに「すべきこと」を考えてみましょう。そして、この一年間を自分なりに有効に使えるように一緒に頑張りましょう。

和歌山からの優しさ

王 舒媛（中国）

今日は、和歌山にきて 283 日目です。こんなに長い時間が経っても、去年の 9 月 24 日は、昨日のように感じられます。その日は飛行機に乗ることが初めてで、日本に来ることも初めてでした。

実は、私は外向的に見えますが、見知らぬところに行くことを恐れます。そして、日本に到着するまで自分の一年間の生活が非常に気掛かりでした。しかし、和歌山から優しさを実感して、心配や不安が取り除かれました。

留学生を日本の生活に慣れさせて、留学生の間の距離を縮めるために、WIN コンコードはさまざまな活動を準備してくれました。例えば、初めての歓迎会や 12 月の八朔狩り鍋パーティなどです。農園に行って、八朔と大根を収穫したことも楽しかったです。その他には、美味しい鍋料理を食べ

たり、クリスマスのためのケーキを作ったりしました。活動以外にも、車で旅行に連れて行ってくれて、生活面でもたくさん助けてくれました。これらは留学生活に彩りを与えてくれました。

留学生活の中で、アルバイトが多く時間を占めました。コンビニの同僚からお客様まで、温かさを身にしみて感じていました。私はミスばかりしていましたが、店長はいつも「大丈夫よ」と言ってくれました。初めて一人でお客様に向かった時は、心臓がドキドキして緊張していましたが、同僚からもらったホットココアを飲んで、緊張が和らぎました。12 月 24 日には店のクリスマスギフトをもらいました。この袋の中にケーキとチキンがあるとは思いませんでした。新年にももらったお年玉も忘れられません。外国人として、ギフトをもらった時、心に深い温かさを感じました。店長と同僚だけでなく、お客様も優しくかったです。お客様は私の名札を見ると、いつも中国語で「加油」と言って、私を元気づけてくれました。

回転寿司屋でアルバイトをしたこともあります。寿司屋で寿司の作り方を習えることが面白かったです。恥ずかしくて日本語が上手ではないから、日本人の同僚とあまり交流しませんでした。唯一の知り合いは寿司の作り方を教えてくれた先輩でした。その日、あまりよく知らない同僚が、先輩に「この人は誰？」と聞きました。先輩は「仲良しです」と言いました。「仲良しです」という言葉に、私はとても感動しました。コロナウイルスが原因で、仕事をやめなければならなかったのが、本当に悔しいです。アルバイト先の知り合いの人は、私に家族の健康や故郷の状況を聞いてくれました。これらは私の心を温めてくれて、異国でも寂しさを感じませんでした。

先生も優しくしてくれました。授業の内容についてわからないことがあったら、手を取って教えてくれました。私たちの学習だけではなくて、生活にも関心を持ってくれています。

昔は常に日本人が冷たいと聞いていました。けれどもこの留学生活をきっかけに、日本人はただ他人に迷惑をかけたくないだけで、他の人を喜んで助けるということがわかりました。このような温かさこそ、一年間私を支えてくれたものでした。そのため、時間が長いと思わないばかりか、「白駒の隙を過ぎるが如し」の諺どおり、時間が短いと感じました。感謝したい人が多すぎて、この文章が足りないと思います。

和歌山で会った人に感謝して、和歌山からの優しさに心から感動しています。





W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>